







発症だが高齢になって顕在化した場合、そして高齢になって発症した場合の3つに類型化した上で、飲酒問題のきっかけで高齢者に特徴的なのは、退職、家族関係の変化、健康上の問題、高齢者特有の心理などであるとも指摘されています。

高齢者がアルコール問題を抱える場合は、医療機関を受診して、身体合併症や認知症の有無をチェックすることが望まれますが、同居家族もまた高齢で認知症が見られたり、あるいは身体機能の低下が著しくて協力が難しかったりという場合があります。

### 3. 高齢アルコール依存症への対応

アルコール依存症者の否認に対しては、様々な情報を集めて問題として浮かび上がる事実をもって当事者に直面してもらう方法がとられることも多いものでした。しかし、近年では否認を突き崩すのではなく、当事者の中にある変化希求の気持ちを徐々に大きくしてもらいながら最終的に断酒を決意する手法も、「動機づけ面接」と呼ばれて強調されるようになりました。いわば節酒と断酒を繰り返しながらですが、当事者自身が自分の生活を考え、人生の中で飲酒を自身がどう位置づけるのかを、援助者は注意を向けて見守りつつ、しかし粘り強く「飲まない暮らし」という別のあり方を提示するのです。

しかし高齢者の場合には、生き甲斐の喪失や“老い”への不安、あるいは孤立感といった独特の心理的状況にあることをまず考える必要があります。これまでのスタンダードな援助手法をそのまま援用することはしばしば効果がないのです。むしろ、“依存症だから”ということよりも、こうした当事者の心情を十分に汲み取って、“健康の維持や増進の一つとして”、「断酒」を勧める方が受け入れやすいのです。「老い先短い命だからどうなっても勝手だろ」と言われながらもその人なりに生きてきた軌跡を聞き、最期までよりよく生きる目的を援助者が一緒に見いだすような関わりを続けることで、治療へと向かう当事者もおられます。高齢者の場合には、特にプライドを傷つけない配慮が求められます。

また、家族もアルコール問題に対する認識が甘く飲酒を許容する場合があります。かといって監視や叱責ではなく、当事者への励ましと適度な役割の付与などを通じて、当事者と家族が再び暖かなコミュニケーションを取り戻すように、援助者が家族向けのグループワークを実施するのも効果的です。また、地域住民に対しては、日常の実践で、事あるごとにアルコールをはじめとするアディクション問題の仕組みや、治療のあり方、そして回復プロセスを分かりやすく伝えることが大切です。地域における高齢依存症への対応は、当事者への粘り強い働きかけと、住民のアディクション問題に関する知識を増やす啓蒙活動の二本立てで進めていくのが効果的と考えて下さい。その意味では、まず援助者が自分の周りにこの問題を一緒に考え行動してくれる仲間を作る必要があります。

#### 参考・引用資料

北海道地域依存症対策推進委員会、北海道立精神保健福祉センター「地域で支える依存症からの回復 相談と支援の手引き」

国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口（平成19年5月推計）」

【3】お知らせ .....

◇ 精神保健福祉センターでは、こころの電話相談を次の時間帯で受け付けています。

月曜日から金曜日 9:00～21:00

土曜日・日曜日(12月29日～1月3日を除く) 10:00～16:00

Tel: 0570-064556

※ご相談の電話が集中しますと、つながりづらい状態になりますがご了承ください。

◇ HP・携帯版 HP をご覧ください

北海道地域自殺予防情報センターの HP を開設しています。最新の北海道の状況を掲載しており、より情報を見やすく、分かりやすくお伝えできるよう心がけています。うつ病や依存症、借金問題についての知識をはじめ、「死にたい」と相談されたときの対応方法について、Q&A 形式で紹介しています。ぜひご覧ください。

パソコン HP URL: <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/sfc/jisatutaisaku.htm>

また、携帯電話で見ることができる携帯版 HP も開設しています。警察庁および北海道警察から公表された統計資料をもとに、北海道における自殺の状況を掲載しています。こちらも併せてご覧ください。

携帯 HP URL: <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/sfc/i/joukyou.htm>

【4】編集後記

例年より長く穏やかだった秋を過ぎ、いよいよ北海道のあちらこちらから初冬の便りが聞かれるようになりました。これからますます冷え込み厳しくなり、路面の凍結が予想されます。お車を運転される方も徒歩での移動が多い方も、事故やけがなどに十分お気を付けてくださいませ。また、インフルエンザや風邪など、体調を崩される方も多くなってきているようですので、どうかお体ご自愛くださいませ。

引き続き「Andante」をご愛読いただきますよう、宜しく願い申し上げます。

次号 Vol.42 は、平成 24 年 12 月末に配信予定です。

\*お問い合わせ先\*

北海道立精神保健福祉センター

札幌市白石区本通 16 丁目北 6 番 34 号

Tel 011-864-7121

Fax 011-864-9546

URL <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/sfc/>

Mail [hofuku.seishin1@pref.hokkaido.lg.jp](mailto:hofuku.seishin1@pref.hokkaido.lg.jp)